

ロイヤル・アカデミー展 華麗なる英国美術の殿堂



ジョン・エヴァレット・ミレイ「ベラスケスの思い出」1868年
油彩・キャンバス ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ蔵
©Royal Academy of arts, London ;
Photographer:John Hammond

尊経閣文庫名品展 — 国宝『類聚国史』を中心に —

Motion&Still 塑造・桐塑人形の美 — 紺谷力・井口十糸・山本榮子 —

夏休み親子で楽しむ美術館 アートdeかるた

琳派名作選

館蔵優品選 — 絵画・彫刻 —



木芯桐塑人形「大地へ」井口十糸
(Motion&Still 塑造・桐塑人形の美)



金胎蒔絵漆箱「飛翔」寺井直次
(アートdeかるた)

ロイヤル・アカデミー展

華麗なる英国美術の殿堂

主催：北陸中日新聞、石川県立美術館、ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ、石川テレビ放送
 後援：プリティッシュ・カウンシル、石川県、金沢市、金沢市教育委員会、エフエム石川
 協力：東京富士美術館

8月1日(金)～8月31日(日) 会期中無休

◆料金表

大人	一、三〇〇円(一、一〇〇円)
大高生	一、〇〇〇円(八〇〇円)
中小生	六〇〇円(四〇〇円)

※()内は二〇名以上の団体料金、及び前売料金です。
 ※当館友の会員証は会員登録の提示により団体料金に割引されます。

◆関連行事

講演会 会場：当館ホール 先着二〇〇名、聴講無料

「ロイヤル・アカデミー展の見どころ」

8月1日(金) 午後2時～3時 講師：五木田聡氏(東京富士美術館館長)

「ロイヤル・アカデミーとシェイクスピア、そしてターナー」

8月9日(土) 午後2時～3時 講師：河村錠一郎氏(一橋大学名誉教授)

ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツは、一七六八年に画家、彫刻家、建築家、版画家を会員として、国王ジョージ三世(一七三八～一八二〇)の庇護のもと設立された英国の芸術機関です。芸術家への財政支援を目的に年次の展覧会を開催するとともに、教育機関として専門的な芸術教育を提供し、ターナーやカンスタブル、ブレイクなどの人材が育っています。このアカデミーの創設により、英国美術は独自の道を歩みはじめ、確固たるアカデミズムを築いたのでした。現在に至るまでの約二五〇年間、ロイヤル・アカデミーの歴史はまさに英国美術の歴史そのものと言っても過言ではありません。

アカデミーのコレクションは、絵画(九四〇点)、彫刻(一、一八〇点)、版画(八、〇〇〇点)、素描(一〇、〇〇〇点)、初期写真(五、〇〇〇点)など

による大規模なものです。その中核は、アカデミー各会員が自薦で提出した優品で、非常に質が高く、そして個性溢れるコレクションとして有名です。

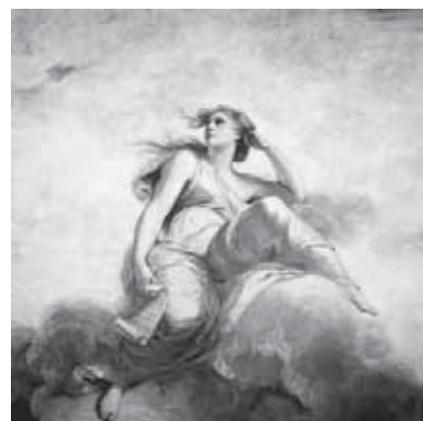
本展では、アカデミー初代会長レノルズをはじめ、ゲインズバラ、ターナー、カンスタブル、ミレイ、サージェントなど、英国美術界を華やかに飾った歴代会員の優品を中心に、創設当初から二〇世紀初頭までのアカデミーにおける一五〇年の歴史をたどります。日本初公開作品七十点余を含む、いまだかつてない規模で、「美の殿堂」ロイヤル・アカデミーのコレクションを紹介し、英国美術の真髄に迫ります。



ウォーターハウス「人魚」1900年
 Photographer: John Hammond



ターナー「ドルバターン城」1800年
 Photographer: Prudence Cuming Associates Limited



レノルズ「セオリー」1779～80年
 All images © Royal Academy of arts, London

特別陳列 尊經閣文庫名品展

— 国宝『類聚国史』を中心に —

前期: 7月31日(木)~8月15日(金)

後期: 8月16日(土)~8月31日(日) 会期中無休

学芸員の眼

毎年この時期に開催する恒例の尊經閣文庫名品展です。今回は国宝『類聚国史』を二十六年ぶりに公開します。

『類聚国史』とは、六国史(『日本書紀』『続日本紀』『日本後紀』『続日本後紀』『日本文徳天皇実録』『日本三代実録』)の記事を、その内容に従って編年とともに分類編集した歴史書です。これは前田家が遠祖として尊崇する菅原道真の編纂により、寛平四(八九二)年に成立したものです。もとは本文二〇〇巻・目錄二巻・系図三巻の計二〇五巻でしたが、現存するのは六十二巻のみとなっています。その内容は神祇、帝王、後宮、人、歳時、音楽、賞宴、奉獻、政理、刑法、職官、文、田地、祥瑞、災異、仏道、風俗、殊俗という十八の分類(類聚)ごとにまとめられています。

前田家に伝わる四巻(巻第一六五「祥瑞部上」・

一七一「災異部五」・一七七「仏道部四」・一七九「仏道部六」)は現存最古の平安時代末期の古写本です。前田家の入手時期は、学者大名といわれた加賀藩五代藩主前田綱紀によるものです。また、綱紀はこの入手以前に、すでにその模写本を作らせています。そのほか室町時代の写本も二種類入手

していますが、こうした『類聚国史』収集への熱意は、綱紀が菅原道真を篤く尊崇した特別な想いによるものです。なお、綱紀は道真や菅原氏に関する書籍や資料の収集にも力を注いでおり、道真の自撰漢詩文集『菅家文章』や『菅家系図』なども合わせて展示します。

このような綱紀の業績は、今日の文化財保存事業の先駆けといえるものです。

(前後期で作品の巻替えを行います)

昨今の文化財に関するホットなニュースは、昨年の「富士山」に続き、「富岡製糸場」が世界文化遺産に認定されたことです。また、国宝「東寺百合文書」が重要な歴史文書の保存を目的とした世界記憶遺産の国内候補の一つに選ばれました。

「東寺百合文書」は、仏教史はもちろん中世史を解明するうえで貴重な歴史資料です。前田綱紀は、日本各地に家臣を派遣して書物を求めましたが、東寺の文書にも注目し、借用して目錄の作成や文書の書写を行い、貞享二(一六八五)年、これらの文書を整理保管するための桐箱百個を作らせ、文書を納めて寄進しました。このことから「百合文書」と呼ばれています。こうした綱紀の文化事業には、文化財保存管理への高い見識が認められますが、それ故に、今日の世界記憶遺産候補に選ばれたのではないのでしょうか。

Motion & Still 塑造・桐塑人形の美

—紺谷力・井口十糸・山本榮子—

7月31日(木)~8月31日(日) 会期中無休

学芸員の眼

桐塑とは桐のおがくずを生麩糊しょうふのりで練って粘土状にしたもので、固まると質感が木に近く、木彫よりも細かな表現がしやすい素材です。桐を素材とする理由は、他の木材に比して脂が出にくいからです。乾く過程で割れが生じることが多く、井口や山本は木彫でおおまかな形を作り、その上に桐塑で細部を造る木芯桐塑という技法をとっています。

対して紺谷は、ステンレス棒で芯を造り、樹脂入りの粘土で成形した堅牢性の高い塑造で、木彫を基礎とする木芯桐塑よりも成形の自由度が高く、一瞬の動きをとらえる紺谷の作品にふさわしい技法です。石川県の人形界を牽引した下口は木彫。作家たちは独自の表現を求めて、技法や素材の工夫を重ねているのです。



下口宗美 木彫加彩人形「愛宕浄晨」

人形は宗教的な祈りや崇拜などの対象、そして愛玩物として古代から日本人の生活に関わり、次第にその役割はより日常的な儀式や行事まで広がると、手工芸品として大きく発展しました。現在、展覧会で観ることのできる創作人形は、このような連続と続く歴史を背負った工芸作品と言えるでしょう。

石川県における人形は、木彫彩色人形を主に制作した下口宗美がリーダーとなり、その下で多くの作家が育ちました。本展ではこれらの作家たちの中から、日本伝統工芸展を中心に活躍する三人の塑造人形・桐塑人形の作家、紺谷力、井口十糸、山本榮子を紹介します。

紺谷は塑造に彩色する伝統的な技術を用いて、奉納の舞楽を演じる少年などの古典的なモチーフで、躍動的な動きを見事にとらえた、臨場感のある作風は高く評価されています。井口は

現在展覧会出品を中断していますが、温かみのある桐塑と自ら染めた和紙などで幼児の姿を表し、生きとし生けるものいとなみを描き出す独自の世界を築きました。山本の造る女性たちは、しなやかな肢体に美しい紙や布地の色づかいで華やかに彩られ、混迷する時代にとまどいながらも前を向く姿を示しています。

人形は形としては人体彫刻に近いですが、彫刻が造形的な美しさを追求した先に、心象表現を生み出すこととは逆に、人の心の動きを表現するために、人体の造形美を用いたのが人形であり、それゆえに情感に訴える力があります。人間の動き(Motion)や静止(Still)した瞬間の美しさをとらえた作品から、それぞれの作者が込めた思いを感じていただければ幸いです。



山本榮子 木芯桐塑人形「風花」



紺谷力 彩塑人形「腰鼓遊楽」

夏休み親子で楽しむ美術館 アートdeかるた

7月31日(木)～8月31日(日) 会期中無休

学芸員の眼

昨年の秋、特別陳列「能島芳史展」での小学生親子対象の鑑賞講座で、「アートかるたを楽しむ」が行われました。能島先生の作品がかかるたでいうところの「絵札」、そして、「読み札」を作品をどう捉えたかという鑑賞者の感性でつくりました。いろいろな要素で構成された幻想的で不思議な世界の能島先生の作品の魅力に引き出され、参加者は徐々に読み札づくりの楽しさにはまり、最終的には参加者それぞれが複数枚の読み札を完成。そしてみんなの前で、できあがった読み札を読み上げ、どの作品か当てるのも、また、楽しい活動でした。参加人数は少なかったものの、参加者からこの「アートかるた」の活動をもう一度！という要望が出るほど好評で、それが今回の展示につながりました。

夏休み恒例、子どもたちをはじめ、ご家族で展示を楽しんで頂く企画「夏休み親子で楽しむ美術館」。今年のテーマは「アートdeかるた」。美術館でかるた？みなさんお馴染みのかかるたのルールにのっとり、美術作品を楽しく鑑賞する企画です。

展示室に入ったなら…かるたと同じように、読み札を一つ取って読んでみましょう。

さあ、この読み札を表した展示作品はどれだと思えますか？「あれかな？」「これかな？」

おや、一緒に来た家族やお友達はあなたと違う作品を指さしているかもしれませんね。

実はこのアートかるた、答えは一つとは限らないのです。というのも、美術作品は、それを見る人によって注目するところもその作品をみてどう感じるかも違うのです。この読み札もまた、その読み札をつくった人が一番心に響いたこと

を言葉に表したものだ。だから、同じ読み札を聞いても家族やお友達が違う作品を指さしているのは、ちっとも不思議なことではありません。このように、答えは一つではないのですが、違う答えが出て来た時は、どうしてそう思ったのか聞いてみましょう。他の人がどんなふうに感じたのか自分と違う意見を聞くのも、あなたが知らない作品の見方の扉をあけてくれるきっかけになるでしょう。

さあ、今度はあなたのお気に入りの作品をみつけてみましょう。そして、あなた自身の見方でその作品をどんな風に感じたか、とっておきの読み札をつくってみませんか？



越塚友邦「廬山観瀑図」



富永直樹「大将の椅子」

第3・4展示室

館蔵優品選 一 絵画・彫刻

7月31日(木)～8月31日(日) 会期中無休

近現代の絵画・彫刻部門においては、館蔵優品選と題してこの部門における当館の優品、代表的な作品をご紹介します。

日本画部門では、まず大正、昭和期に活躍した前田青邨の「鮒」、安田靉彦の「飛鳥をとめ」、伊東深水の「酔燕台翁」などの優品をご紹介します。こういった名だたる作家たちには知られざる名品が多いものです。これらの作品もその内に数えられるものと自負するものです。そして昭和、平成に京都画壇を中心に活躍し、全国的に知られる西山英雄、石川義ら、石川にゆかり深い物語作家の作品を中心にをご紹介します。

油彩画では清水鍊徳、高光一也、南政善、宮本三郎、鴨居玲、吉田富士夫など物語作家の代表作に、現在活躍中の池田良則、大場吉美、加藤安佐子、白尾勇次、田井

淳、立見榮男、西田洋一郎、西房浩二などの作品を展示します。写実から抽象を交えた具象作品、そして抽象画まで、本県ゆかりの洋画家達が、それぞれに築き上げた独自のスタイルを、優品によりご覧いただきます。

彫刻部門も館蔵品を中心とする優品の展示です。立体・空間造形で、さらに物質芸術でもある彫刻では様々な材質が使われていて、作品テーマやフォルムに最も合った素材を選ぶと共に、制作では素材の特徴を生かすことも重要です。展示ではブロンズを中心に、ステンレス・乾漆など様々な素材を扱いますが、同じ素材の作品の中にもテーマや表現により多様な表情を示す素材の魅力についてもお楽しみください。



安田靉彦「飛鳥をとめ」

第2展示室

琳派名作選

7月31日(木)～8月31日(日) 会期中無休

昨年当館で開催された「俵屋宗達と琳派」展は、尾形光琳の没後三〇〇年の節目となる二〇一六年に向けた、新たな琳派ブームの先駆けとなったようです。琳派の魅力は親しみやすい造形美にあるといえますが、「俵屋宗達と琳派」展で明らかにしたように、その根底には平安時代以来の「知のあそび」の伝統が生きています。

世阿弥は『風姿花伝』で、「見る人のため花ぞとも知らでこそ、為手の花にはなるべけれ」と述べています。これは、ここが見せ所だということを鑑賞者に知られないようにすることが、演技者の要諦だとする「秘すれば花」の精神と解釈することができますでしょう。能楽と深く関わりがあった宗達や光琳の作品が示す親しみやすさにも、確かにこの精神は生きています。そ

こで作者がどのような趣向を仕掛けているのかをじっくり読み解く鑑賞方法も、琳派への知的なアプローチとして今後さらに注目されることでしょう。

今回は、宗達工房が制作した色紙に、本阿弥光悦が『古今和歌集』の歌を揮毫したものを三十六枚屏風に貼り交ぜた「光悦色紙貼交秋草図」、宗達晩年の名作「檜櫓図」、宗達の後継者俵屋宗雪が、加賀藩の発注により描いたと考えられる「群鶴図」、宗雪の後を継いだ喜多川相説が、当時の先端的な学問だった博物学的な観点で描いた「秋草図」、そして相説から宗達以来の表現を受け継いだ、尾形光琳のデザインによる「蒔絵螺鈿野々宮図硯箱」と「蒔絵螺鈿白楽天図硯箱」、以上石川県指定文化財ほか二点を展示します。



景文 俵屋宗達「檜櫓図」江戸17世紀

秋季企画展「工芸王国の実力！」

会期：平成26年9月27日(土)～10月26日(日)

石川県立美術館は、昭和三十四年の旧館開館以来、石川県の美術文化の継承と発展を担い、活発な美術館活動を推進してきました。その五十年を超える活動の中で、すぐれた美術作品の収集を積極的に行い、今日では約三、〇〇〇点のコレクションを形成するに至っています。とりわけ、藩政時代より伝統技術が受け継がれてきた工芸の分野においては、陶磁、漆工、染織、金工、木竹工など、あらゆるジャンルにわたって高い水準をもつ内容となっております。

本展は、近現代工芸のコレクション約一、〇〇〇点の中から優品を選びすぎり、またご寄託いただいている作品や県内の個人、機関にご所蔵されている名品をまじえて約一二〇点を展示いたします。会場では、明治期から今日にいたる作品群を、制作された時代に沿って展示構成し、石川の近現代工芸の流れを概観するとともに、明春の北陸新幹線開業のプレイベントとして、あらためて当県の工芸の実力を再認識していただくことができることと思います。

見どころの一つとしては、当館コレクションを代表する名品・松田権六作《蓬菜之棚》を、特設台に展示してご鑑賞いただきます。通常はガラスケースの中の展示で、一方向からしかご覧いただけませんが、今回は四方からの鑑賞が可能となります。併せて作品が制作された当時の状況をうかがわせる、作者によって細かく記された底板の銘を写真パネルで紹介します。

そのほかいくつかおすすめの見どころがあります。次回ご紹介したいと思います。



松田権六「蓬菜之棚」

第十二回美術館バスツアー報告 平成26年5月25日(日)

新潟県上越市を巡った今回のバスツアーは、題して「上越のこころ―高田・春日山を訪ねて―」。親鸞聖人・上杉謙信・小林古径という上越ゆかりの先人たちの思いに触れ、歴史を感じていただこうという企画でした。

午前中は高田方面へ向かい、最初に親鸞ゆかりの浄興寺へ行きました。お寺からの説明もあり、御本廟の彫刻の美しさに感嘆。次に訪れた小林古径記念美術館では、学芸員の笹川氏の解説で、展示室と古径邸を鑑賞しました。吉田五十八作の邸宅は興味深く、古径の人となりを感じられるようでもありました。

戦国の食事を再現した昼食を挟み、午後からは春日山方面です。凛とした雰囲気漂う林泉寺では、ご住職のお話や寺院の端々から謙信の深い精神性が伺われました。旅の最後は春日山城跡・春日山神社記念館です。ボランティアガイドの案内で、城跡頂上・本丸を目指しました。汗を流しながら山城を体感し、歴史に思いを馳せる締めくくりとなりました。

全体に足早での行程となり申し訳なく思っておりますが、無事にツアーを終えられましたのも参加者の皆様のご協力によるものと感謝しております。この場をお借りしてお礼申し上げます。



八月の行事予定

2日(土)	小学生親子鑑賞講座 午後1時30分	2階コレクション展示室
10日(日)	「アートdeかるたをたのしもう」	
1日(金)	講演会 午後2時	美術館ホール 聴講無料
9日(土)	「ロイヤルアカデミー展の見どころ」講師 五木田聡氏(東京富士美術館館長)	
	「ロイヤルアカデミーとシエイクスピア、そしてターナー」講師 河村錠一郎氏(一橋大学名誉教授)	
	ビデオ鑑賞会 午後1時30分	美術館ホール 入場無料
31日(日)	「美の美67 ターナー 狂気をかきこつ風景画家 誰も私の絵を好きになる権利はない」(23分)	
	「続・美術のみかた2 西洋美術の流れ―様式の歴史―」(30分)	

中 儀延 なか・よしのぶ 明治28年～昭和56年(1895～1981)



やや灰色がかった温かみのある桃色地に、向かって右側の肩から袖の前後に立涌、左側の袖から前身ごろにかけて大きく千鳥格子、右側の裾と前身ごろ下部に小花(菊花)散らし、背中から左裾まで川の流れのように配した梅花散らしと、四種類の異なった小紋を組み合わせて、付下風に構成した着物です。

江戸小紋の明快な色彩とは違った柔らかない色合い、花などの有機的な柄と幾何学文との組み合わせ、白場(白く染め残した部分)の多寡で表す濃淡など、絶妙なバランスで成り立ったデザインは、確かな技術を礎にしたものであり、着物の古典的な意匠構成を踏襲しながらも、新鮮な

魅力にあふれています。

中儀延は明治二十八年、金沢市に生まれ、国本亀次郎、津沢三次に師事して小紋染を学びました。昭和三十八年に第十回日本伝統工芸展初入選後、同展入選を重ね、四十七年には第十九回展で二種類の異なる小紋を組み合わせた、付下小紋「流れ小花」で日本工芸会会長賞を受賞しました。

五十三年には加賀小紋で、石川県指定無形文化財保持者に認定されています。現在、加賀小紋の第一人者として活躍する坂口幸市は、中儀延の孫であり、また弟子としてその技術と伝統を今に受け継いでいます。

次回の展覧会

会期:9月3日(水)～9月23日(火・祝)

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室	
加賀藩の美術工芸		仏画と肖像画	
第3展示室	第4展示室	第5展示室	第6展示室
鴨居 玲 — 道化師たち —	首と肖像彫刻を 中心に	絵画的意匠の展開	秋のけはひ

ご利用案内

コレクション展観覧料
 一般 360円(290円)
 大学生 290円(230円)
 高校生以下 無料
※()内は団体料金
 毎月第1月曜日はコレクション展示室
 無料の日(8月は4日)

今月の開館時間
 午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間
 午前10:00～午後7:00 年中無休

**8月は無休で
開館しています**

Meiカード

ポイントプラスデー

毎週水曜日は
エムザでお買物

Meiカード
通常ポイント

+

3%
ポイント
プラス

MEITETSU
MIZA

めいてつ・エムザ

金沢むさし TEL(076)260-1111(代)
www.meitetsumza.com
10時～19時30分(地階レストラン街・書籍は21時まで)

石川県立美術館だより
第370号(毎月発行)
2014年8月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/